

…………… 第3回

小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べていきたいと思います。今回は、新しい補助教材『We Can!』を使ったつなぎ方について、ご紹介します。

小中連携のポイント

①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ②

POINT 1 『We Can!』の指導書の目次を見る
(学んできたことを知るいちばん手短な方法)

POINT 2 Small Talkで生かす—3ステップでやってみる
(英語でのやりとりを気軽にやる第一歩)

太田 洋

おおた・ひろし
東京家政大学教授
東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、駒沢女子大学教授を経て現職。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

今回は、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」の例として、『Hi, friends!』と中学校教科書を使いました。第3回目の今回は、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」の予定でしたが、小学校の新しい補助教材『We Can!』を中学校の先生方にも知ってもらい、活用することが大切だと思いますので、内容を変更して、『We Can!』を題材に「What to learn」についてもう一度考えていきます。

1. 『We Can!』の指導書の目次を見ましょう

「この言い方、小学校でやったよね」——これは先日私が参観した中1の授業での一場面です。ある活動のモデルの中に、“I want to ~”の文が入っていました。その際に、ある生徒が上の言葉を同じグループの友達に話したのです。授業の後、「want to ~をやったこと覚えていたの？」と尋ねたら、「そうなんです。“I want to go to ~”で、行きたい国について話しました」と答えてくれました。言葉は場面・文脈の中で繰り返し使うことで身についていくものです。もちろん、すべての生徒がこのように学んだことを思い出すわけではありませんが、小学校で触れてきたことを生かすのは小中連携のポイントの一つです。そのために中学校の先生は、子どもたちが小学校で何を学んだか(What to learn)を知ることが大切です。

では、具体的にどうしたらいいのでしょうか。私がお薦めする一つの方法は、まず『We Can!』の指導書の目次※1)を見ることです。どんな場面でどのような文、文法事項、語彙が使われているのかがわかります。これを中学校では、同じ活動を行うか、または違う場面で生かしながら繰り返し学ぶということが考えられます。

2. Small Talkで生かす—3ステップでやってみましょう

今回は、小学校で学んだことを、違う場面のSmall Talkで生かすことを考えましょう。例えば、『We Can! ①』の「Unit 6 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域」の部分では、使われる文、語彙として、以下が挙げられています。Where do you want to go? / I want to go to (Italy). / Why? / I want to [see / go to / visit] (the Colosseum). / I want to eat (pizza). / I want to buy (olive oil). / It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun].

ここで注目したいのは、構成の特徴です。“I want to ~”と答えた後に、It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun] と感想、気持ちがが続いている点です。2文という最小単位ですが、まとまりのある構成になっています。このことを生かしてSmall Talkをしましょう。

一つの例として、3ステップで行う方法をご紹介します。

1. まず自分が話す

*場面設定は、夏休みに行きたい場所、したいこととします。

“Where do you want to go during the summer vacation?”とクラス全体に問いかける



※1 『We can! ①』指導書 目次

“I want to go to Okinawa during the summer vacation. I want to eat Okinawan soba noodles. They are delicious.”

2. (教室にもう一人先生がいれば)

“How about you?”と尋ねる

*相手の答えに反応する(Really? / Me, too. 相手の言ったことを繰り返す)

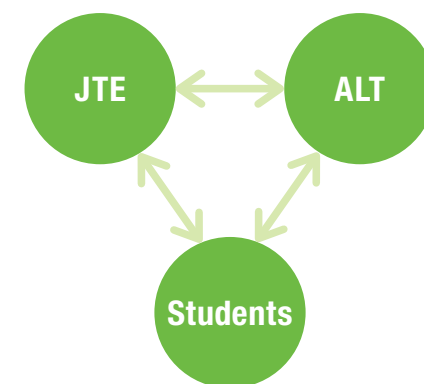
3. 生徒にも尋ねる

尋ね方として、“Did you ~?” “What did you ~?”, 3択、クイズ形式など。生徒はYes/No, 1語で答える、手を挙げさせるなど。

[オプション] 生徒は二人一組になり、お互いに尋ね合う

いかがですか。英語でのやりとりを気軽にやる第一歩として、3ステップで進める方法です。できるときに気軽に行うのがコツです。そしてその際に『We Can!』の目次を見て、話題、場面、文、文法、語彙を生かすという発想がポイントとなります。

ALTとTeam Teachingを行う際は、下の図(※2)のような三角形の関係を心がけましょう。



※2 JTE(日本人教師)—ALT—Studentsのインタラクションの三角形

次号では、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」について、詳しくご紹介します。